

どんな職業か

鉄筋コンクリートの構造物の骨組みになるかご状の鉄筋を加工して組み立てる。

鉄筋コンクリートは、構造物の中でも最もよく使われている優れた構造体で、建物の骨にあたる鉄筋部分の施工、加工、組立作業を行うのが鉄筋工である。したがって鉄筋工の仕事は、マンションやビルなどの建築物をはじめ、橋げた、トンネル、高速道路、地下鉄にいたるまで、私たちが生活する場のほとんどにおよんでいる。

仕事は施工図・加工帳（材料の加工寸法書）の作成、加工、組立に分かれる。作業手順は、まず、作業を行う構造物の図面を見て、使用する鉄筋のサイズや形状・本数を拾い出し、加工帳を作成する。次に、鉄筋業者の工場加工場で加工帳に従って適切な寸法に切断、曲げ、加工された材料を現場で組み立てる。基礎、柱、壁、床、階段といった部分や位置ごとに、図面と配筋基準どおりに、順序よく取り付けることが求められる。

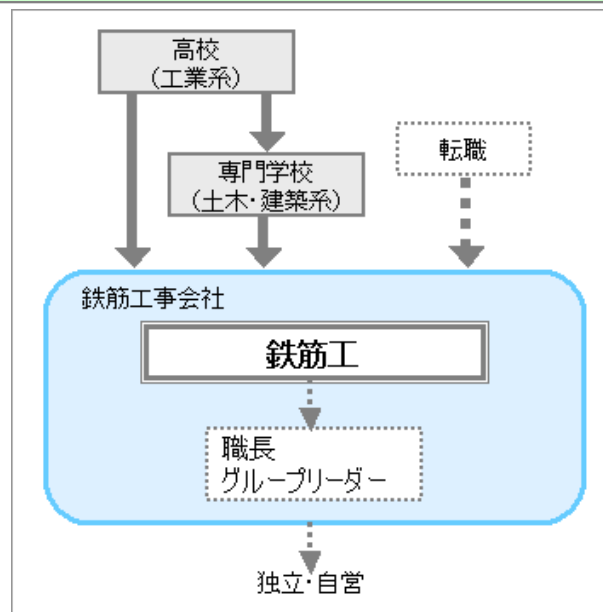
安定した丈夫な構造物を造るためにとっても重要な仕事であり、正しく選別・加工された材料を使って、基準に沿った取付けを行う必要がある。

就くには

入職にあたって特別な学歴は必要とされない。全国の鉄筋業者が高校へ求人活動をしているが、ほとんどの会社は求人対象を土木・建築科に限定せず、活動的で健康な人材を広く求めている。また、学校の紹介だけでなく、中途採用したり、新聞や求人専門誌などを通じて広く他の職業からの転職者を求めている。

機械や重機の普及により、加工も取付けも以前よりは腕力を必要とされなくなったが、重量物を扱う仕事なのである程度の体力は必要である。

関連する資格として厚生労働省が実施する技能検定の「鉄筋施工技能士」の資格があり、取得すると技術の証明として評価される。最近では、ある程度の規模以上の官庁工事には1級技能士の常駐が要求されていることから、技能士手当を支給している会社も多い。職長あるいはグループリーダーとして現場をまとめていくには1級技能士の資格を持っていると有利である。



労働条件の特徴

従業上の地位は常用雇用が多い。賃金については日給制が多く採用されているが、新規学卒者採用に当たって月給制に切り替えているところも増えている。賃金は本人の能力や地域によって差があり、熟練工になると、自分の能力に応じた出来高精算をしている場合もある。

以前は、建設業に携わる技能工の労働条件についてとくく悪いイメージがあったが、最近はほとんどの会社で就業規則が整備され、賃金・労働時間・休日などの労働条件がはっきりしている。休日が天候や工事の進行状況に左右されることは避けられないが、日曜日の休業はほとんど定着し、正月休み、夏期休暇の長期化などによって労働時間短縮に向かっている。

鉄筋業は、鉄筋技能士への早い時期からの取組みや福祉共済制度・厚生年金基金の設立など業界ぐるみで雇用環境の改善に取り組んできた結果、新規学卒者の入職が増え始め、鉄筋工の平均年齢は建設関係の他の職種に比べると一番低い。

参考情報

関連団体 社団法人 全国鉄筋工事業協会
<http://www.zentekkin.or.jp>

関連資格 鉄筋施工技能士